PDF Compressor Free Version

ふるさとの歴史 こぼれ話 Vol.30

9・12豪雨災害と学校(1)

―「児童の教育の場」と同時に「地域の避難所」として―

昭和51年の9・12災害では、島小学校区は8日から13日朝まで、ほぼ冠水状態となりました。4階建て校舎（2階に職員室等の管理室）の小学校も床上42㎝の浸水、最高時1700人程の避難場所となりました。そんな中、学校はどんな努力・活動をしたのでしょう？

1.「休校」と避難者受入れ

9月4日に発生した台風17号は、北緯30度付近で足踏みし、停滞していた秋雨前線を刺激しました。このため岐阜県は、長期間にわたり多量の降雨に見舞われました。

○8日（水）15時30分、岐阜県に大雨洪水注意報、23時には大雨洪水警報が発令され、岐阜市北部等では浸水被害が始まりました。

○9日（木）6時20分に、島小学校は「自宅待機」を連絡網で指示しました。そして9時頃「休校」を決定し、通学路や校区の冠水状況の調査・写真撮影を行いました。この日から学校職員の宿直勤務を始めました。

○10日（金）は、6時10分に洪水警報が注意報に切り替わったことから、PTA会長等と協議しながら授業実施に踏み切りました。保護者の誘導を受け、児童は登校しました。

前日までの雨により鏡島大橋・両満橋付近・旦島の通学路が冠水しており、西中島・江口・菅生地区は島田方面、旦島地区は国道303号へ迂回して遅れて登校しました。

校区の冠水状況を把握した9時段階で下校の措置が協議され、「第5時限で授業を打ち切り、集団下校」を決定。

水に浸かった工場（11日）

午後PTA執行委員会を開き、連絡網等の打合せをしました。

○11日（土）は、「洪水警報」が出て、「全市的休校」になりました。午前10時頃から島新町地区住民等の学校への避難が始まり、避難所としての受入れ体制づくり（教室の机や椅子を隅に寄せる等）を開始しました。

17時頃には、西島や招光町、東島等からの避難者が270人程となりました。この日の宿直員2人は避難所としての勤務に就きました。

（校区に住んでいたA教諭の話）

6日だったと思うけど、自宅の壁には色々な虫がぎっしりとへばりついていました。また水たまりの中を泳いで行く蛇の姿を見て、私は不気味さと不安を感じました。

校区状況調査では、屋根まで水に浸いた工場を見て驚きました。長良川では流木が堤防を壊さないように水防団の人達が活動をしていました。また堤防内でも、水が噴き出していないかを調べる人達の姿も見ました。

長良川と水防団（東島）

○12日（日）には、降り続く大雨と上流から流れて来た水で、浸水家屋が増加していました。朝の3時には長良川の水位が最高となり、4時過ぎには「避難命令」が出されました。また両満川や早田川の水が溢れ、島地区全体に拡がったのです。日曜日にもかかわらず、学校職員10名が登校し、避難所としての勤務に就きました。10時過ぎには、学校の1階（1年生教室や保健室・家庭科室・講堂等）の床上浸水が始まりました。玄関付近には真っ黒な水に色々なゴミが浮かび、嫌な臭いがたちこめました。

各教室のオルガンや机等の備品をできる限り2階へ上げました。刻々と避難者が増加し、最高時には1660人に達しました。

12日・救助船で避難

校舎2階より南東を望む

急激に避難者が増加する中で、避難者名簿作成等の事務処理・教室配分等に追われました。

また情報連絡・食糧や物資配給・病人手当・避難者同士の争い仲裁や苦情処理・避難者の問い合わせや連絡などの電話対応等、学校長や災害対策本部の指示に基づく活動は、多忙を極めました。

（応援にかけつけたB教諭の話）

12日の朝「勤務に就いて欲しい」と電話を受けた私は、下着等を入れたリュックを頭上に乗せ、ゴミや油等が浮かぶ泥水に胸まで浸かりながら学校に入りました。1階から2階に上る階段には、何匹もの犬が手すりに繋がれていました。床には糞が散らばり、鼻を突く臭いがたちこめていました。

すばやく着替えて職員室での仕事に参加しましたが、家族の安否を確認する電話対応、人数確認と教室配分等、目が回る忙しさでした。

「狭い。もう少し詰めて下さい。」との声に、先に避難していた人たちは、「あんた等は自宅で荷物を二階に上げていて避難が遅くなったんやろう。…狭くても仕方がない。」と…。

避難者同士の喧嘩の仲裁に苦労し、また「トイレが臭い」等の苦情処理に追われました。

（学校へ避難したA教諭の話）

刻々と水が増え家の中に浸入してくる様子を見て、近くの幼稚園に避難しました。しかしその後、救助船で学校へ避難することになりました。

指定された教室は先に避難した人たちで一杯で、私たちは廊下で過ごすことになりました。

その後、私は避難所の学校職員として、食糧・物資の配給、避難者名簿の作成等の仕事に当たりました。

寝るときも、家族と離れて、職員室のロッカーとロッカーの間で体を横たえました。

（2）に続く

9月12日・日曜日	
日	時刻	気象・浸水状況・学校の動き
	0時55分	大雨の中、避難の人数ふえる。ラジオのみが情報源
	3時30分	長良川水位が最高となる
	4時20分	ラジオが避難命令を伝える。校舎内の避難者に「起きて電灯を外に向けて明るくするように」との指示
	5時25分	校庭に水が浸く。市教委へ校庭浸水報告
	6時20分	給食室等、一階が床下浸水
	7時15分	赤ちゃんのミルク作りのためプロパンガス・飲み水確保
	9時20分	一年教室のオルガン等を二階へ上げる。電話の列
	9時25分	朝食おにぎり一人一個（救援物資として舟で搬入）
	10時20分	校舎床上浸水となる。運動場八〇センチ
	10時28分	停電対策・船・看護・食事・毛布・水洗便所等に困る
	11時00分	安八町大森の長良川堤防が決壊
	12時00分	てんかん発生。医療体制がなく困る。準備室の物資を二階へ上げる。避難者一三一九人。収容人数の限界を超え、一教室に六〇人以上の教室も出る
	14時00分	避難者一四一一人
	15時00分	避難者の教室分担再調査
	15時00分	床上浸水四二センチ（最高位）。避難者の中の養教の先生を中心に医療体制をとる
	16時34分	電灯つく（停電時間一七時間）。食糧物資到着
	17時20分	床上浸水三六センチに。綿花・生理用品手配の電話
	17時25分	おにぎり一人二個を配給。避難者名簿の作り直し作業
	18時00分	避難者一六六〇人をこす。一教室に百人以上の所も
	18時45分	各室代表者の会「自治について」
	22時30分	床上二センチとなる。職員室の電話に列。増設が必要

避難者で満員の教室

○この文章は、「島郷土史」「水禍―島小校区の水害記録―」等をもとに、後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア
「お話・岐阜の歴史サークル」
代表　後藤　征夫
http://book.geocities.jp/gifurekisi/rekisitop.htm